

安心して暮らせるまち、

元気に暮らせるまちにする 予算編成

平成30年度の予算を決定しました。予算の概要と各分野の主な事業を紹介します。



鶴ヶ島市は、交通の利便性がよく、市民の皆さんの活動も盛んで、更なる発展が期待されるまちです。

その一方、全国の自治体でも課題となる少子高齢化の急速な進行で地域活力の低下が懸念されています。

このため、将来に向かって安定した市政運営を行い、着実に前進していくことが重要です。平成30年度は、安心して元気に暮らせるまちづくりのための事業に重点を置いて、予算を編成しました。

安心して暮らせるまち

今年に入り、残念ながら市内で交通死亡事故が発生しています。

これ以上死亡事故を増やさないためにも、古くなった「止まれ」などの路面標示を新しくするほか、都市計画道路をはじめ、円滑な道路網を確保していきます。

大規模災害に迅速に対応するため、防災行政無線をデジタル方式に移行し、全国瞬時警報システムは、新型受信機に更新します。

さらに、虐待・DV・貧困などに総合的に対応する窓口を市役所に集約して充実を図ります。

また、自治会館、地域支え合い協議会や地域包括支援センター事務などを併設した「つるがしま中央交流センター」の運営を支援し、地域交流を活性化させます。

元気で暮らせるまち

年度当初の保育所入所待機児童ゼロを目指すなど、引き続き、子育て支援の事業に取り組みます。

また、子どもの食と学習の支援を一体的に行う学習サロン併設型子ども食堂への補助を行います。

学校教育では、教育系ICT環境の充実や、教員が児童生徒に向き合える時間を増やせるように環境整備を進めていきます。

さらに、公園や小学校の遊具の更新・修繕を実施するほか、健康遊具の設置を行い、健康づくり運動の拡大・定着を進めます。

未来へ向け、市政を一步前へ

将来に向かって市政を一步前へ

進めていくためには、より時代に即した適切な施策の検討・実施が必要です。

このため、市の将来像を描く総合計画について、現行計画の計画期間を1年前倒しして、平成32年度から始まる「第6次鶴ヶ島市総合計画」の策定に取り組みます。

また、将来にわたって市民の皆さんの生活利便性を確保するための「立地適正化計画」策定にも取り組みます。

市民の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

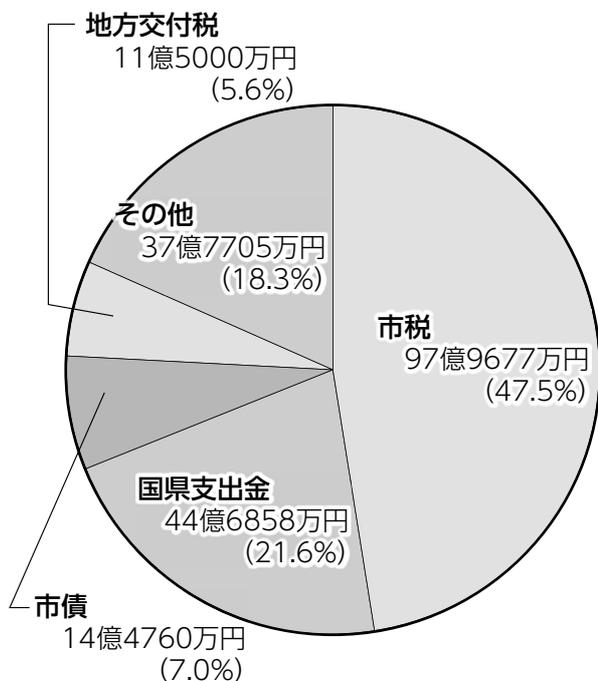
鶴ヶ島市長 齊藤 芳久

一般会計

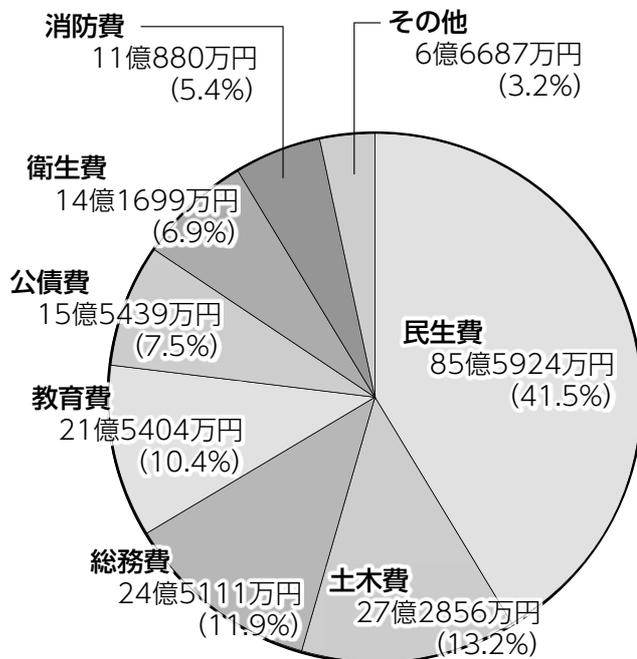
206億4000万円

福祉、教育、道路整備などの基礎的な行政サービスを行う会計です。

歳入



歳出



どういう意味なの？ 財政用語

歳出	
民生費	福祉全般の事務・事業に使うお金
土木費	道路、公園整備などに使うお金
総務費	行政全般の事業に使うお金
教育費	学校、生涯学習などに使うお金
公債費	借金を返済するために使うお金
衛生費	衛生的な生活のために使うお金
消防費	消防や災害対策に使うお金
歳入	
市税	市民税、固定資産税などの税収入
国県支出金	特定の事業のために国・県から支出されるお金
市債	大きな事業のための借金
地方交付税	市の財政状況に応じて国から交付されるお金

※各予算額については、万の位で四捨五入を行っているため各項目の積み上げと合計が一致しない場合があります。

問合せ先 財政課財政担当

特別会計

123億1727万円

特定の歳入・歳出をもって一般会計とは経理を別にする会計です。鶴ヶ島市は、5つの特別会計があります。

会計名	予算額	前年度比
国民健康保険	70億3925万円	-21.0%
後期高齢者医療	7億437万円	11.8%
介護保険	38億6243万円	-10.0%
一本松土地区画整理事業	2億7897万円	-42.1%
若葉駅西口土地区画整理事業	4億3224万円	17.1%

会計別の予算額

区分	予算額	前年度比
一般会計	206億4000万円	3.3%
特別会計	123億1727万円	-16.1%
合計	329億5727万円	-5.0%

主な事業の概要と予算額

新 新規の事業

29 平成29年度の補正予算において新規事業として計上した事業

健やかで安心できるまち(健康・福祉・安心安全)

交通安全設備整備事業 577万円

交通事故を未然に防止するため、警察と協議し、路面標示の設置を行うことで、安全な通行を確保します。また、経年劣化が著しい箇所の路面標示を再施工し、交通安全対策を図ります。

防災行政無線デジタル化推進事業 1億3464万円

防災行政無線を平成30年度から3か年でアナログ方式からデジタル方式へ順次移行します。平成30年度は、親局、遠隔操作卓および子局8局を更新します。

地域でスクラム・健康マイレージ事業 984万円

「今より1日1000歩多く歩こう」を取組みの目標として、埼玉県コバトン健康マイレージシステムの活用や各種健康講座などを実施します。また、健康遊具を新たに新町中央広場に設置し、更なる健康づくり運動の拡大・定着を図ります。



交通安全設備整備事業には、昨年度比約5倍の予算を配分

活力に満ちたまち(コミュニティ・市民協働・産業)

29 ホストタウン交流事業 588万円

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツだけでなく、歴史・文化の学習や市民交流などを通して、ミャンマーとの親交をさらに深めていき、次代を担う子どもたちの育成や国内外に向けたシティプロモーションなど地方創生へとつなげます。

新 つるがしま中央交流センター運営支援事業 300万円

共栄連合自治会館、つるがしま中央地域支え合い協議会事務所、地域包括支援センター事務所などの機能を備え、市民センターのような利用や市民の交流の場として活用する「つるがしま中央交流センター」について、施設の円滑な運営を支援することで、活力ある地域づくりを進めます。

新 配偶者暴力等相談支援事業 132万円

様々な要因が複合的に絡み合う家庭内の問題に専門的に対応できる相談体制を整備します。被害者への支援強化を図るために、専門の相談員の勤務日数を増やし、DVなどの相談、女性のための相談に総合的に対応します。

雨乞いのまち鶴ヶ島活性化事業 100万円

雨乞いに通じる「水」をテーマにした夏季イベント「(仮称)雨間(あまあい)フェスタ」を実施します。2020年の脚折雨乞開催に向け機運を高めていきます。

ふるさと振興発信事業 2億3535万円

ふるさと納税制度を積極的に活用することにより、引き続き、市の知名度の向上と産業の活性化を図ります。

快適に暮らせるまち(環境・都市整備)

水道路整備事業 2億6030万円

道路の改良工事や拡幅整備に必要となる調査業務や用地買収を実施することにより、交通の安全と通行の円滑化を図ります。

都市計画道路整備事業 8685万円

埼玉県による埼玉県農業大学校跡地の活用と連動した周辺道路の整備により、跡地活用の促進および円滑な道路網の確保を図ります。

市内公共交通運行事業 7732万円

高齢者、障害者、交通手段を持たない方など、いわゆる交通弱者の市内の移動手段を確保するほか、通勤や通学、買い物などにも利用できる市内公共交通機関を確保します。また、平成30年度は、つるバス・つるワゴンの利便性がさらに向上するよう、ルートおよびダイヤを見直します。

公園管理事業 1億1998万円

利用頻度の高い運動公園に複合遊具を新設します。また、「公園施設長寿命化計画」において危険判定となった7か所の公園の遊具について、必要な修繕および施設更新を行います。



近隣公園施設修繕事業 956万円

平成30年度は、脚折近隣公園のトイレ設備を修繕し、利便性の向上を図ります。

人を育むまち(子育て・教育・生涯学習)

民間保育所運営支援事業 10億7199万円

民間保育所に対して公定価格による給付を実施するとともに、運営改善と振興のために補助を行うことにより、子育て環境の充実を図ります。

29 児童虐待対応相談事業 220万円

児童虐待事案の増加、重篤化に伴い、通告や相談に適正に対応できるよう児童虐待対応相談員を配置し、体制の強化を図ります。

新 子ども食堂運営支援事業 74万円

子どもの食に対する支援と学習支援を一体的に実施する「学習サロン併設型子ども食堂」へ補助を行い、子どもの貧困対策を推進します。東市民センター、西市民センターで月2回ずつ実施予定です。

新 鶴ヶ島保育所空調更新事業 1431万円

保育所児童の健康で安全な保育環境を保持するため、鶴ヶ島保育所の空調機器を更新します。

地域型保育事業 1億5932万円

国が定める基準による給付などの実施に加え、増加する保育需要に対応するため、新たに認可を予定している保育園(定員30人(うち地域枠10人))に対する経費などを追加します。

新 (仮称)龍蛇工房整備事業 2574万円

脚折雨乞で使われるミニ龍蛇などの展示や龍蛇製作技術継承の拠点、資機材の保管機能を備えた施設として(仮称)龍蛇工房を整備し、行事開催のない年にも脚折雨乞の持つ魅力に触れ、伝統行事の継承を支援します。

新 新体育館整備構想調査事業 900万円

市民の屋内スポーツ施設に対する将来的なニーズの把握をはじめ、鶴ヶ島市に求められる体育館の施設機能や適正規模などについて、専門的な視点から調査し、新体育館整備の方向性や本市の課題について整理します。